

乳腺外科

当科は

「地元で安心して受けられる乳腺診療」

を目指しています

1. 当院乳腺外科の特色

2024年5月より、常勤1名・非常勤1名の乳腺専門医が、乳房のさまざまな症状(しこり、痛み、分泌など)や乳癌を中心とした乳腺疾患全般に対する診療を行っております。

安心して診療を受けて頂けるよう、ガイドラインに沿った『標準化治療』と一人ひとりに寄りそう『個別化治療』の両立を心がけ尽力して参ります。

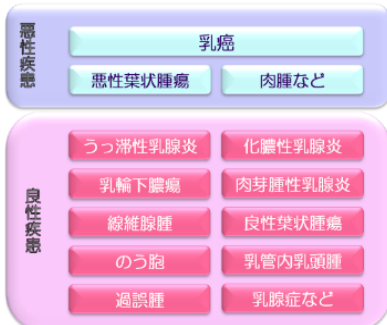
2. 乳腺疾患について

乳腺疾患の代表ともいえる乳癌ですが、その罹患数は年々増加し続けており、2019年の全国統計では97000人を超え、生涯罹患リスクは10.6%(=日本人女性の9人に1人)となりました。

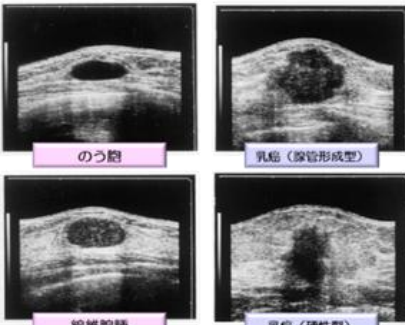
乳腺に生じる疾患には良性のものも多く存在しますが、実臨床では良悪性の判断が難しいこともあります。

乳房・乳腺に関する症状や所見などを認めた際には、ぜひお気軽にご相談ください。

《主な乳腺疾患》



《乳腺疾患のUS画像》

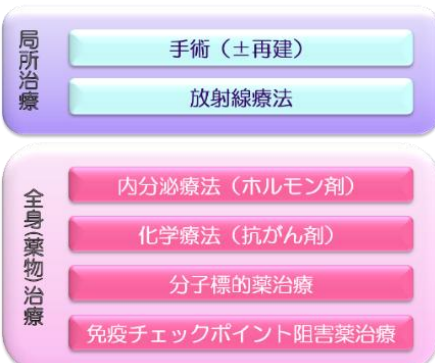


3. 乳癌の診療

乳癌の治療方針は、癌の進行度やサブタイプ分類、閉経状態や年齢などの医学的診断を基に、個人の価値観や生活リズムなどを総合的に考慮し決定していきます。

複数の治療法を組み合わせることが一般的ですが、当院では専門の医師・看護師・薬剤師などの担当スタッフが協働し、一人ひとりに寄りそう治療方針をご提案できるよう心がけております。

《乳癌の治療》



4. 乳房再建について

2017年頃からインプラント(エキスパンダー)による乳房再建が保険適応となり、乳癌の手術療法を受ける際に人工物による乳房再建という選択肢が選べるようになりました。

乳房再建方法には、乳癌手術と同時に進行する一次再建と乳癌手術後に一定期間経過してから行う二次再建があり、乳腺外科専門医と形成外科専門医が連携して施行します。

《乳房再建の分類》

一次再建	乳癌手術と同時に行う
二次再建	乳癌手術後に一定期間経過してから行う
自家組織再建	自分自身の組織(脂肪や筋肉)を使う
人工物を用いた再建	ティッシュエキスパンダー(組織拡張器)やプレストインプラント(シリコン製人工乳房)を使う

《エキスパンダー挿入後》



《インプラント再建(前・後)》



《広背筋皮弁再建(前・後)》



《DIEP-flap再建(前・後)》



5. BRCA 遺伝子検査について

遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)の原因となるBRCA1/2遺伝子の病的変異(バリエーション)ですが、PARP阻害薬の適応拡大に伴い、転移再発乳癌症例だけではなく一定の条件を満たす早期乳癌症例に対しても、保険適応での検査が行えるようになりました。

日進月歩の乳癌診療分野では、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの新薬が次々と承認されており、個々の症例に対して適切な治療方針を決定するために、必要不可欠な検査となっています。

6. 当院の施設認定

保険適応のティッシュエキスパンダーおよびプレストインプラントを利用した乳房再建、およびBRCA遺伝子検査には施設認定が必要となります。乳癌診療における『標準化治療』と『個別化治療』の両立を目指し、当院の施設認定は年内に取得する予定です。



大森赤十字病院

日本赤十字社

赤十字は、動いてる! 日本赤十字社